

放射2年生のワクチン接種と 抗体検査のお願い

4年生になると北大病院および近隣の病院
で病院実習を行います。

どの病院でも、患者と接する可能性のある
職員や実習生は、全員、ワクチン接種と
抗体検査を受ける必要があります。

麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価を検査すること。

抗体価が基準を満たさないときはワクチン接種を受けること。

(医療者は伝染疾患になってはいけない。)

B型肝炎ウィルス抗体が陰性の方はB型肝炎ワクチン接種を受けること。

詳細は、北大病院の実習生へのお願いを参照して下さい。

<https://www.huhp.hokudai.ac.jp/sotsugo/detail/00002668.html>

抗体検査で、**麻疹**（はしか measles）、**風疹**（rubella）、**水痘**（水ぼうそう chicken pox）、**流行性耳下腺炎**（おたふくかぜ mumps）の**抗体**が血液中に基準値以上あるか調べるが、これらのウイルス感染既往がない人は**獲得免疫による抗体がない**ので、発症する可能性あり。**ワクチン**（無毒化～弱毒化された抗原）の接種が必要。

B型肝炎（Hepatitis B）の**抗原が陽性**の人は（主に血液感染）**B型肝炎ウイルス**（**HBV**:HB Virus）が血中にある（発病するか**キャリア**（発病しないが感染力を持つ））。**HBV**は、肝炎、肝硬変、肝癌を発症する。

B型肝炎抗体が陰性の場合は、**ワクチン接種が必要**。**医療従事者**は、**病人からの血液感染の危険がある**ので（注射針の穿刺事故など）、**B型肝炎抗体を陽性にする必要がある**。**HB抗体は陽性になり難い**が**3回は接種を**。

これらの準備は2年の今頃から始めないと、
4年生6月からの病院実習に間に合わない。

抗体はすぐには獲得されない。
(特にB型肝炎抗体は1年以上かかる)

時間的余裕のある今頃から、近くの病院や
検診センター(札幌駅北口の札幌複十字総
合健診センターなど)に、まず電話やメール
等で問い合わせ予約を取ってから受診を
して下さい。(費用は自費になります。)

※ 各ウイルス性疾患抗体価の受入れ基準（検査方法は EIA 法〈IgG〉とする）

	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎
受入れ可の基準値	16.0 以上	8.0 以上	4.0 以上	4.0 以上

**これらの抗体価を証明できる書類を
できるだけはやく提出して下さい。
（提出先は、放射専攻 堤香織先生へ。）**

B型肝炎ワクチン接種（下記 a, b, c 全てを満たすこと）

- a. 1クール（0日、1ヶ月後、6ヶ月後の3回）のワクチン接種を受けること。
- b. 1クルールのワクチン接種完了から1ヶ月以上経過後、HBs抗体検査にて陽性（EIAまたはCLIA、RIA法で10mIU/mL以上）と確認できること。
- c. 上記のHBs抗体検査にて陰性と確認された場合は、再度1クール（0日、1ヶ月後、6ヶ月後の3回）のワクチン接種を受けること。（やむを得ず抗体陰性者が実習等をしなければならない場合、少なくとも実習等の前に1回目のワクチン接種を済ませること。）

**これらのB型肝炎ワクチン接種記録を証明
できる書類を
できるだけはやく提出して下さい。
（提出先は、放射専攻 堤香織先生へ。）**

今までのワクチン接種既往に関係なく、

はじめに、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体価の測定検査を受けてください。

受入れ基準を超えていればOKです。
受入れ基準を超えていなければ
ワクチン接種を受けてください。

これだけの単純なルールです。

胸部X線写真撮影は、大学の検診で実施します。

インフルエンザワクチン接種は、毎年、流行するウィルスに対するワクチンが異なるので、とりあえず必要と判断される時までは、必須ではありません。